

3 体力課題解決研究指定校【高篠小学校への支援】

1 概要

体力課題解決研究指定校は、体力の課題解決に向けた研究、学習指導の改善及び体育的活動に関する研究を2年間取り組む。

高篠小学校では、研究主題を「自ら進んで運動に取り組む、健やかな心と体を持つ児童の育成」と設定した。また、目指す児童像を「元気いっぱい 運動大好き しののめっ子」とし、体力の向上と運動好きな児童の増加を目指した取組を実践している。

2 主な取組・内容等

(1) 授業研究会の実施

ア 要請訪問の実施

5月19日(月) 黒澤淳子 教諭 3年生 跳び箱運動

6月5日(木) 大平正芳 教諭 6年生 バスケットボール



イ プレ授業研究会の実施 10月30日(木) 低・中・高で実施

小島久美子 教諭 1年生 ボール投げゲーム

太幡 敬子 教諭 4年生 セストボール

島寄 紀江 教諭 5年生 マット運動



(2) 指導案検討会への参加

高篠小学校で行われる低・中・高学年ブロックそれぞれの指導案検討会に参加し、研究主題等に迫るための「授業づくり」の支援を行った。教材研究から授業づくりに関わっていくことにより、運動の特性にふれる効果的な教材づくり、児童の実態に合った学習過程等、授業づくりの細かい部分までじっくりと検討でき、体育授業の質の向上につなげることができた。

秩父市立高篠小学校の取組

平成25・26年度埼玉県課題解決研究指定校、秩父市教育委員会研究委嘱校

1 研究主題

「自ら進んで運動に取り組む、
健やかな心と体を持つ児童の育成」

2 研究の期間（2年次）

平成25年度～平成26年度 2年間

3 研究の目的

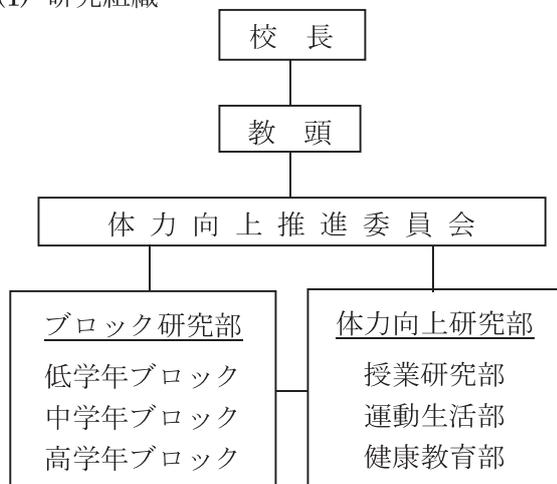
本校の学校教育目標は「心豊かでたくましく生きる子ども」（○学ぶことを好きになろう ○思いやりの心持とう ○運動を好きになろう）である。知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指し、日々の教育活動を推進している。

本校児童の運動面での実態を見ると、平成25年5月の新体力テストでは、総合評価A+Bの割合が46.4%であった。また、「立ち幅跳び」と「握力」に関しては、県平均を下回る学年があり、「跳躍力」と「握力」が本校のここ数年の課題である。また、健康教育の面においては生活習慣のさらなる改善が課題である。

そこで、本校の研究主題を「自ら進んで運動に取り組む、健やかな心と体を持つ児童の育成」と設定した。また、目指す児童像を「元気いっぱい運動大好き しなのめっ子」とし、体力の向上と運動好きな児童の育成を目指した取組を実践してきた。

4 研究の実践内容

(1) 研究組織



(2) 各体力向上研究部の仮説

ア 授業研究部仮説

体育科の授業において、子どもが「できる」「のびる」体験を積み重ね、運動の楽しさを味わわせる授業を展開すれば学習意欲が高まり、自ら進んで運動に取り組む子が育つであろう。

イ 運動生活部仮説

児童の実態を基に環境を整備し、体育授業以外の運動を充実させれば、自ら進んで運動に取り組む子が育つであろう。

ウ 健康教育部仮説

身近な健康に関する実践を通し、子どもたちの理解が深まる指導法を工夫したり、健康な生活をめざす生活習慣の改善や家庭との連携を図ったりすれば、健やかな心と体を持つ子が育つであろう。

(3) 各体力向上研究部の取組

ア 授業研究部

- (ア) 発達段階に応じた指導法の工夫・改善や年間指導計画の見直し
- (イ) 高篠小「体育授業の基本」を作成することによる学習規律の確立
- (ロ) 自校体操（しなのめ体操）による学校統一の準備運動・補助運動の実施



- (エ) 発達段階に応じた思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

イ 運動生活部

- (ア) 児童の運動実態調査の実施とその分析
- (イ) 生活体育の環境整備「高小運動がんばりカード」の作成と実施
- (ロ) 業前運動の工夫改善（毎週木曜日ロング朝遊び：朝遊び補助員を活用した外遊びの奨励）
- (エ) 業間運動の工夫改善（毎週金曜日わくわくタイム実施）



(オ) 体育部教師と運動委員会児童による鉄棒教室（業間休みに年12回実施）



ウ 健康教育部

(ア) 児童の生活実態調査とその分析（早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち調べ）



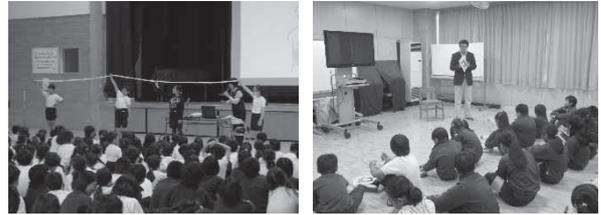
「早寝・早起き・朝ごはん」調べを5年間継続して実施している。また、朝うんち調べを3年前から始めた。今年度の4月と9月を比較すると、すべての項目において、できた人の割合が増加した。朝ごはんは、ほとんどの児童しっかり食べて登校することができた。特に朝うんちをする児童の割合が26.1%から46.3%に伸びた。

(イ) 食育の積極的な推進



1年「給食試食会」、2年「さつまいも作り」、3年「梅干し作り」、4年「食育授業」、5年「稲作」、6年「朝食作り」等、食育指導も充実している。

(ロ) 健康教育の充実



外部講師による、親子で学ぶ「おなか元気教室」、学校医による「歯科講話」、学校薬剤師による6年生対象の「薬物乱用防止教室」、年3回の「学校保健委員会」を実施した。

(ハ) 保健学習・保健指導の充実



発育測定の日、学級毎に養護教諭が紙芝居で体の学習や生活指導をした。性教育は全学年実施し、養護教諭が連携したティーム・ティーチングも行っている。その他、全校向けの歯みがき指導や、学年毎の歯みがきミニ指導も行っている。

(ニ) 児童の活動



給食委員会（食育の劇、給食感謝会）



保健委員会（歯みがきテスト、清潔検査）

給食委員会は、食育の劇を行ったり、給食感謝会を行ったりしている。

保健委員会は、風邪予防の劇や、清潔検査などをしている。

(カ) 掲示物の充実



保健室の周りは掲示物でいっぱいです。

(4) 授業実践

「絆の授業10」を目指した各ブロックの研究授業の取組

絆の授業10

- ① いつも笑顔で子どもたちを迎えます。
- ② 拍手やハイタッチでムードを盛り上げます。
- ③ 少年のような新鮮な感覚で教材研究をします。
- ④ 子どもたちとのコミュニケーションを大切にします。
- ⑤ 子どもたちへのねぎらいの気持ちを大切にします。
- ⑥ 発問や言葉がけで、子どもの気づきを大切にします。
- ⑦ リズムやテンポで運動量を確保します。
- ⑧ 発表や教え合いの場面を重視します。
- ⑨ 評価を大切にし、深い感動や意欲をかきたてます。
- ⑩ 家庭への情報発信で絆を深めます。

ア 低学年ブロック

1年生：ボール投げゲーム (ゲーム)

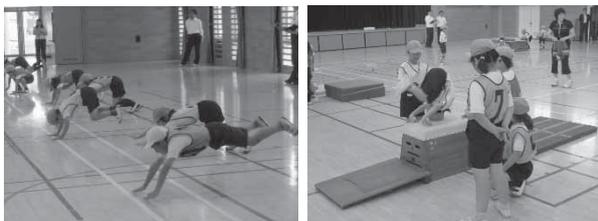
絆の授業重点ポイント ②、⑥、⑦、⑨



イ 中学年ブロック

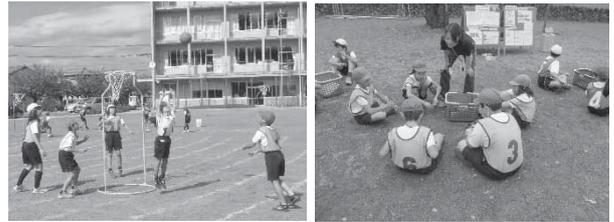
3年生：跳び箱運動 (器械運動)

絆の授業重点ポイント ⑥、⑦、⑧



4年生：セストボール (ボール運動)

絆の授業重点ポイント ⑦、⑧、⑨



ウ 高学年ブロック

5年生：マット運動 (器械運動)

絆の授業重点ポイント ②、④、⑧



6年生：バスケットボール (ボール運動)

絆の授業重点ポイント ⑦、⑧、⑨



(5) しののめ台の整備と活用

本校の校庭東側にある高台(しののめ台)を活用した体力向上の取組を行っている。体育授業に、しののめ台の登り下りを取り入れたり、「しののめクロスカントリーカード」を活用したりすることにより、子どもたちは休み時間に、しののめ台に登って遊ぶことが以前より多くなった。



しののめ台の整備は、夏休みのPTA奉仕作業と地域の方々に参加していただいている「しののめ台倶楽部」の奉仕作業により、子どもたちが安全に活動できるようにしている。



5 「絆の授業への道」発行

職員向けの校長だより「絆の授業への道」の発行により、研究の方向性をより明確にし、「絆」に焦点をあてた授業改革に取り組んだ。



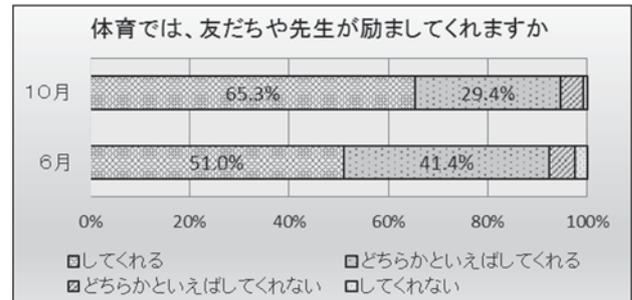
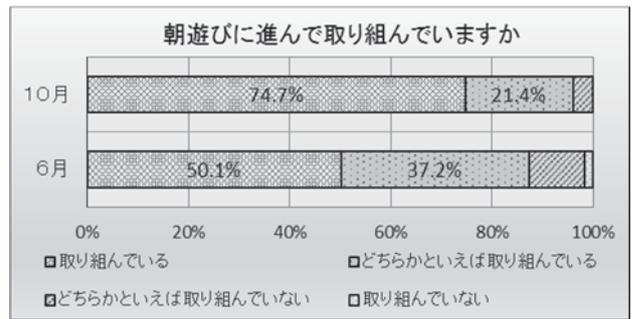
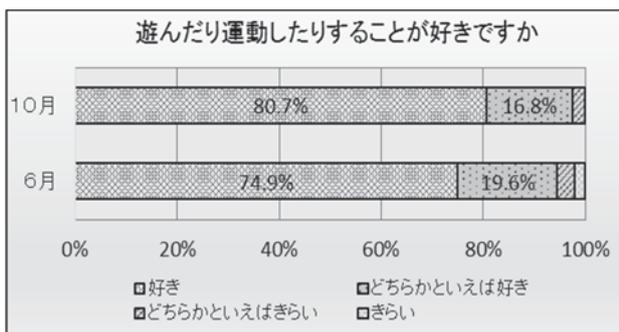
6 「体力向上だより」の発行

本校の体力向上に関する取組を家庭や地域に広く伝えることにより、取組への理解を得るとともに、学校・家庭・地域が一体となって児童の体力の向上を目指した。

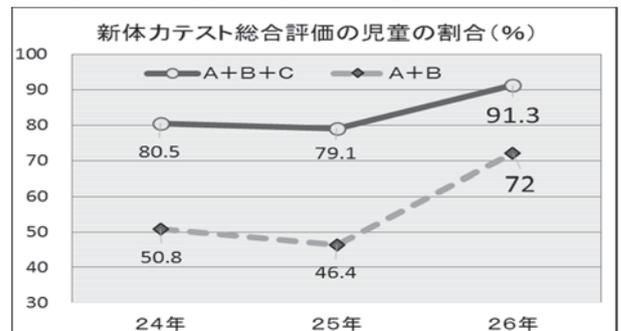


7 研究の成果

- (1) 「絆の授業10」を授業に取り入れたことにより、体育授業の中で友だちや先生の励ましの声が多くなり、雰囲気の良い授業となった。その結果、朝遊びを進んでやる児童と運動好きな児童の割合が増えた。



- (2) 教具や環境面を充実したことにより、運動の生活化が図られ、子どもたちが意欲的に運動に取り組むようになった。
- (3) 「早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち調べ」を継続的に取り組むことにより、家庭と協力しながら、家庭と協力しながら、生活習慣の改善が図られるようになってきた。
- (4) 様々な体力向上に関する取組を行った結果、新体力テストの総合評価において、平成25年度は低下傾向であったが、平成26年度は大きな伸びが見られた。



8 今後の課題

- (1) 「元気いっぱい 運動大好き しのめっ子」の育成を目指し、今後も体育授業の工夫改善に取り組んでいく。
- (2) 児童自らが、運動や遊び方工夫して、楽しみながら積極的に体力づくりができるよう、運動の生活化を図っていく。
- (3) 心と体の健康づくりにおいて、保護者や児童の意識は高まってきたが、まだ望ましい態度や習慣が身に付いていない面もあるので、今後も家庭と連携して取り組んでいく。

(文責 宮原 宏成)

Ⅲ 研修会・講座・委員会

1 教師力向上研究研修会事業

① 教師力向上研修会『若い教師のための学級経営講座～秩父師範塾～』

1 ねらい

教職2年次から9年次までの若手教員を対象に、学級経営上の課題についてのワークショップ型研修を通して、望ましい学級集団の育成ができる力を身につけさせる。

2 参加者（市内小・中学校教諭22名）

教職経験2年次から9年次教員（5年次教員及び臨時的任用教員を除く）のうち、各学校1名程度を学校長が指名する。なお、9年次までに全員が受講するものとする。

3 指導者 聖徳大学大学院教職研究科 南部昌敏 教授

4 日時・内容等 「学級経営力向上をめざした協働と省察によるワークショップ型研修のすすめ」

	日時等	内容
第1回	6月25日（水） 午後1時30分 ～午後4時45分 《芸術文化会館》	①学級経営に焦点を当てこれまでを見つめ、これからは見通しましょう ②OECDのキーコンピテンシー ③学級力で変わる子どもと授業 ④学級づくり成功の極意
第2回	7月30日（水） 午後1時30分 ～午後4時45分 《芸術文化会館》	①夏休み前の学級経営を振り返りましょう ②スマホやSNS時代のネットモラル ③魅力ある授業をつくる～学習意欲を高める方法～
第3回	10月15日（水） 午後1時30分 ～午後4時45分 《芸術文化会館》	①9月末までの学級経営を振り返り、これからの学級経営の具体方策を策定しましょう ②効果的で魅力的な授業づくりについて考えましょう
第4回	12月17日（水） 午後1時30分 ～午後4時45分 《尾田蒔小学校》	○研究授業「学級活動」 尾田蒔小：松本教諭 ○研究協議 ①効果的で魅力的な授業づくり

第5回	2月4日(水) 午後1時30分 ～午後4時45分 《芸術文化会館》	①今年度1年間の学級経営 を見つめましょう ②秩父 師範塾を考える ③「反省 的实践家」としての教師	
-----	--	---	---

5 参加教員の主な感想

- 研修では、今までの学級経営について振り返りを行い、自分自身多くの成果と課題があったことに気付くことができました。グループで意見を交換し合う中で、新たな発見や解決策、課題を見つけ、今後の意欲を高めることができました。学級経営は教師として最も大切で最も難しいものだというのを改めて感じました。今後たくさんのお子様たちとのかかわりの中で、子どもとともに学び、喜び、悩みながら自分の力を高めて生きていきたいと思えます。
- この一年を通し、自分自身の学級経営についてじっくり振り返るいい機会を与えていただきました。子どもたちの姿を観察し、うまくいったことやうまくいかなかった原因を考えることはいい勉強でした。仲間たちと悩みを共有し、解決策を考えることで、新たな発見があり、その後の授業等で生かすことができました。他の先生たちの取組を知ることもでき、毎回刺激を受け、私ももっと頑張らなくてはという思いが高まりました。今まで学んだことを今後の教育活動に生かし、意欲をもって取り組んでいきたいと思えます。
- 5回の研修会を通して仲間ができました。お互いに切磋琢磨し合い、励ましあう中で明日への意欲が高まる有意義な研修でした。5回の研修で学んだことを現場で生かして生徒の成長の一助とします。南部先生はいつも温かな笑顔で私たちの意見を受容されていました。私も生徒に南部先生のように接していきたいと思えます。今回、このような学びの機会をくださりありがとうございました。
- 和気あいあいとした雰囲気の中で一年の取組について改めて振り返ることができ、とても貴重な時間となりました。少しずつではあるけれど、一年前の自分より今の自分、昨日の自分より今日の自分が確実に進歩しているということを今日実感することができました。

6 成果と課題

(1) 成果

- 少人数グループでの協議を何度も積み重ねることにより、若い教師の学級経営力・実践力の向上を図ることができた。また、教育実践を見つめ直し、若い教師同士のかかわりを強め、教育に対する「意欲」をさらに強めることができた。

(2) 課題・次年度への検討課題

- 受講生が、各学校において、「学級経営」「ワークショップ型研修」の推進者となるよう、「研修内容」と「研修生の意識向上」の工夫をこれまで以上にすすめる。

2 中堅教員研修会

1 ねらい

各学校で中堅として活躍する教員を対象に、学校教育が抱える諸課題への対処方法等に関する講義や協議をとおして、学校教育の中心的な推進者としての識見と資質の向上を図る。

2 参加者（市内小・中学校教諭21名）

各学校1名程度（学校規模により複数参加可）を学校長が指名する。その対象者は、30歳代前半から50歳代前半までの教員を原則とする。（※10年次教員、20年次教員及び臨時的任用教員を除く）

3 会場 芸術文化会館

4 日時・指導者・内容

	日時	指導者	内容
第1回	9月2日(火) 15:00	勅使河原一郎 教育相談室長	○教師生活を振り返って ○先人・先達に学ぶ ○現在の教育問題 ○中堅教員に望むこと ○不易と流行に対応する教育
第2回	11月6日(木) 15:00	新井 和彦 教育相談員	○子ども達から教えられた素晴らしさ ○人類の危機 ○教職について考える ○学校を変えるのは校長だけか ○環境教育の影響
第3回	1月23日(金) 15:00	磯田 喜次 教育相談員	○願いの叶わなかった教員生活 ○教育の原点に立ち返って ○課題への対応 ○中堅教員の役割とは

5 参加教員の主な感想

- 子どもたちのためという気持ちだけはあると思い、それで満足をしていたが、教育のプロとしては、確かな技術と知識をいくつになっても身につけるような、向上心を持ち続けなければならないと思い知らされました。明日からの自分を変える気持ちがありました。
- 自分に足りないもの、自分が大切にしていきたいことなどが整理され、今後の意欲につながりました。教育者としての使命感とキーパーソンとしての責任感を持ち続け、学校を支える存在になりたいと思います。

6 成果と課題

(1) 成果

- 講義や演習を通して、参加者が自分の教育実践を見つめ直すとともに、学校に期待される目的・目標を達成するキーパーソンとしての責任感を高めることができた。

(2) 課題・次年度への検討課題

- 開催時期については、小・中学校の学校行事、3回の間隔、年間のバランス等を考慮し、再検討の必要がある。



2 授業づくり研修講座

1 小学校の先生が基礎を学ぶ理科講座

1 ねらい

小学校の教員に対して、教師力向上研修の一環として、実験・観察等の体験を取り入れた理科の講座を実施し、理科好きな子どもを育成するための実践的指導力と使命感を養うとともに、理科の基礎的・基本的な指導方法を得させることを目的とする。

2 期日

平成26年7月22日(火)

3 会場

秩父市立大田小学校

4 参加者

市内小学校教諭 21名

5 指導者

佐野日本大学学園講師 大熊光治 先生



6 日程等

- ・開講行事 13:15～13:30
- ・観察実験 13:30～15:30 (①講義 ②採集 ③標本づくり ④スケッチ ⑤協議)
- ・感想発表 15:30～15:50
- ・閉講行事 15:50～16:00

7 研修内容

- ・生物分野「こん虫のなかまをさがそう」
 - ① 講義〔野外観察の意義〕
 - ② トンボ・チョウの採集
 - ③ トンボ・チョウの標本づくり
 - ④ トンボ・チョウのスケッチ

8 参加教員の主な感想

- 何年ぶりかの昆虫採集に、わくわくしながら参加しました。いろいろな場所にいろいろな虫がいて、その一つ一つに命があり、また教材になるということを強く実感しました。自分の手で捕まえた虫が自分の手で教材(標本)となる喜びを感じました。
- まじまじと虫を見ることが少なかったので、スケッチの間、新しい発見をすることができました。グループの協議では、標本の意義や昆虫採集の楽しさについても考えることができ、大変参考になりました。
- 私はあまり虫が好きではないのですが、今日実際にトンボを捕まえてスケッチをすることによって、少し虫が好きになりました。始めはなかなか虫を捕まえることができなかったのですが、捕まえることができた時の喜びは忘れられません。普段子どもたちが捕まえてくる虫は遠くから「すごいね」とかの声かけしかできていなかったのですが、次からは名前まで調べて教えてあげたいと思います。

9 成果と課題

(1) 成果

- 採集・標本作成を通して、生物分野の基礎的な指導方法を得させることができた。
- 外での体験活動等の意義と重要性について、参加者が再認識をすることができた。

(2) 課題・次年度への検討事項

- 来年度は、物理分野もしくは地学分野の講座を実施し、4年間で4分野の基礎を学べるようにする。

2 外国語活動研修会

1 ねらい

小学校における外国語活動の指導方法の改善に向けて、授業研究や研究協議を通して情報交換を行い、小学校外国語活動の充実を目指す。また中学校英語科教員の参加を通して、授業改善を図るとともに、小・中のスムーズな連携を図るために研修を深める。

2 期 日

平成27年2月6日（金）

3 研修会テーマ

『児童がコミュニケーションを図る楽しさを体験できる授業の創造』

4 研究授業

原谷小学校 中山裕介 教諭、 キャリアン・モリタ（ALT）

5 参加者

市内小・中学校教諭 20名

6 指導者

北部教育事務所 川田博樹 指導主事
秩父市教育研究所 矢口岳人 指導主事

7 日程等

- ・趣旨説明 13:30～13:40
- ・研究授業 13:45～14:30
- ・研究協議 14:50～16:10
- ・指導講評 16:10～16:30
- ・閉会行事 16:30～16:40



8 参加教員の主な感想

- 外国語活動から中学英語の授業へ、どのように進めるのがよいか中学校の先生方も悩んでいることがわかりました。やはり小中で共通の目標を持って指導に当たることの大切さを実感しました。
- 外国語活動では、コミュニケーションを図るために、児童が英語を話す機会を多く設けることが大切だと感じました。教師が自ら英語を使うようにし、英語で褒める場面を多くしていかなければいけないなと思いました。
- とにかく先生が英語に積極的に向き合っている姿勢が素晴らしいと思いました。自分ももっと意欲的に取り組む必要があると分かったので、次の授業からどんどん子どもたちに関わり、そしてどんどん褒めて行きたいと思います。

9 成果と課題

(1) 成 果

- 小学校の外国語活動の授業を参観することで、指導方法等の改善に向けてのヒントや具体策を共有することができた。
- 参観した中学校教員が小学校の外国語活動の指導の内容を理解し、中学校と小学校との連携の必要性についての認識をもつことができた。
- ALTとの連携やその活用法についてより認識を深めることができた。

(2) 課題・次年度への検討事項

- 年間1回の実施だけでなく、外国語活動の指導が自信を持ってできる教員を育成するために将来を見通した中・長期的な研修計画が必要である。